

ほけんだより特別号

令和3年6月1日
戸塚愛児園



新型コロナウイルスの影響で、今年度はプールは行いませんが、水遊びや園庭で「泥遊び」などを考えております。園ではできる限り、感染対策には配慮していますが、特に気をつけたい夏の感染症の一覧を作成しましたのでご覧ください。

水いぼ

・・・基本的に自覚症状がなければ、治療の必要はありませんが、自然治癒でも個人差があり、短くて半年から長くて2年ぐらいかかることもあります。稀にかゆくてかきこわしてしまうと、とびひになってしまったり、大きいイボが数か所であれば、(当園嘱託医は)皮膚科受診をおすすめしています。また、水泡が破れ浸出液が出ている時に肌どうしが直接触れたりすると、うつることがあります。そこで長袖を着るなど患部を覆うことをお勧めします。

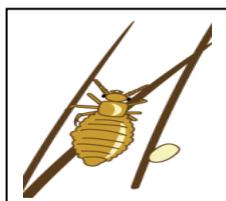
滲出性中耳炎

・・・定期的に耳鼻科を受診し、相談をして下さい。発熱や耳の痛みを訴える場合は、早めに耳鼻科を受診しましょう。

アレルギー性結膜炎

・・・症状が落ち着いていれば、様子を見ますが。午睡後、目やにや充血、目のかゆみがある場合は、眼科を受診しましょう。

頭ジラミの寄生



・・・頭ジラミは頭の毛にだけ寄生します。行動範囲は1分間に20センチ移動し、髪の毛の接触、帽子の貸し借り、タオルの共有などで感染しますので、早急に市販のシャンプーで駆除するようにして下さい。頭ジラミの成虫は、市販のシャンプーで駆除できますが卵にはききません。卵はしっかり髪の毛にくっついているので、指でつまんで引っぱっても取れません、卵を見つけたら切り取ってしまいましょう。

頭ジラミの中には、市販の頭ジラミ用のシャンプーが効かないタイプがいるそうです。日頃から、こまめにお子さまのあたまをチェックしましょう。

手足口病

・・・症状が軽快してからも、1か月くらいは、便やだ液からウイルスが排せつされます。ただ、一般的には症状が軽いことが多く、日常生活で感染する機会のほうがずっと多いです。本人が元気で登園できる場合でも、発疹跡が乾いていない場合は、プール・水遊びは避けましょう。

ヘルパンギーナ

・・・回復してからも約1か月は便やだ液からウイルスが排せつされますが、発熱、のどの痛みがなくなり、食欲が戻って登園できるなら、水遊び・泥遊びも出来ます。

咽頭結膜炎(プール熱)

感染すると登園停止になり、登園には医師の許可証が必要です。伝染性が強いのでタオルの共有でもうつることがありますので注意しましょう。

流行性角結膜炎

・・・感染すると登園停止。登園には許可証が必要です。伝染性が強いので、タオルの共有でうつることがありますので注意しましょう。

とびひ(伝染性膿痂疹)

皮膚に細かい傷がある時、黄色ブドウ球菌・連鎖球菌などの菌がついて傷口に繁殖し、ジュクジュクと汁のある、かゆみの強い水泡ができます。とびひは名前のとおり、あっと言う間に全身に「飛び火」してしまいます。「おかしいな？」と思ったら、早めに皮膚科を受診し治療して下さい。水泡が乾いていない場合は、ガーゼなどで覆って下さい。顔や眼の周りなど、覆いきれない場合は、ご自宅でようすを見て下さい。

副鼻腔炎

・・・鼻の奥の痛みや黄色い鼻水が出ている間は、プール・水遊びは避けたほうがよいです。